週刊観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

第2部

ツーリズムEXPOジャパン2024特集

旅、それは新たな価値との遭遇

主催3団体 特別鼎談

蒲生 篤実氏
日本政府観光局（JNTO）理事長

髙橋 広行氏
日本旅行業協会（JATA）会長

最明 仁氏
日本観光振興協会（日観振）理事長

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）2024」が9月26日から29日までの4日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開かれる。東京での開催は2022年以来2年ぶり。観光・旅行のさらなる活性化へ、業界のプロや一般来場者に旅に関する最新の情報を提供する。事業を主催する3団体（日本観光振興協会〈日観振〉、日本旅行業協会〈JATA〉、日本政府観光局〈JNTO〉）のトップらに今回の出展内容や今の観光・旅行を取り巻く状況、ツーリズムのさらなる振興に向けたそれぞれの取り組みを語っていただいた。（東京のJATA本部で）

旅行市場の現状

――（司会＝本社編集長・森田淳）旅行市場の現状について、それぞれ伺いたい。

最明 コロナ禍が明けて1年半近く。旅行が世の中から再び注目されだした。

オーバーツーリズムという言葉に代表されるように、受け入れの許容量を上回るほどお客さまに来ていただいているところが一部である。

その一部が過剰にフィーチャーされているところもあるが、自分で各地を回ったり、見聞きしたりしている限りで言うと、国内の観光需要は決して好調だとは思わない。

京都や鎌倉でもにぎわっているのはごく限られた場所だ。円安に大きく振れていることがあり、海外に行く代わりに北海道や沖縄へ、という選択肢もあるが、それ以外の地域で大きく伸びているという声をあまり聞かない。決して好調な状態ではないと感じているところだ。

日本の人口が減っていく中で、国内旅行のマーケットをどう活性化するかが今の大きな課題だ。

旅館・ホテルは、稼働率が上がらないところはADR（平均客室単価）を上げて収益を確保しようと努力をしている。ただ、旅館・ホテルは地域における人の交流のハブだ。飲食店や土産店、観光施設に経済的な波及効果をもたらす大きなインフラだと思っている。お客さまの数も確保しないと地域への波及効果が生まれない。付加価値を付けて利益を上げるとともに、お客さまの数を増やす努力も必要なのではないか。

髙橋 観光庁が全国主要旅行会社の取り扱い状況を毎月発表している。われわれJATAの会員を含めた43社の数字だが、直近の6月でいうと、国内旅行と訪日旅行はコロナ前の2019年に対して8割程度、海外旅行は6割程度の回復だ。

ただ、これらは主要旅行会社の数字で、必ずしも業界全体の状況を表しているわけではない。特に訪日に関しては、日本で300万人を超えている。

一方、国内旅行は、海外旅行に比べると回復が進んでいるが、コロナ前の状態には達していないと肌で感じており、8割という数字は実態とそれほどかい離していないだろう。

最大の課題は海外旅行、アウトバウンドの復活だ。昨年と比べると3割ほど増えているが、回復のスピードが遅い。

理由としてはよく言われる円安。旅行費用の高騰。ただ、対ドルの為替の影響をあまり受けないアジア方面はコロナ前の6割以上の回復で、韓国は85%ぐらいまで回復している。

一方で、われわれが扱う主力の一つ、ヨーロッパやハワイの回復が遅れている。これが大きい。

クラスター別では、法人需要が好調。3年間ストップしていたインセンティブ旅行や周年旅行が動きだした。個人は富裕層がある程度動きだしたが、最大のボリュームゾーンのファミリーが動かない。為替、費用の高騰が影響しているのだろう。

蒲生 インバウンドは、われわれの想定を超える伸びを示しているが、2030年までに6千万人という目標がある。その目標に向けて、今後どのように事業を進めるかだ。

オーバーツーリズムの話が出いたが、インバウンドの方々をいかに地方へ誘致するかがわれわれにとっての大きな課題だ。地方の魅力をプロモーションすることになるが、何かのきっかけである地域が突然人気になって、多くの人が押し寄せたりして、地域の中で問題になっている。各地にバランスよく訪れてもらうための施策が必要だ。

消費額についても、中国の方がまだ戻りきらない中でも、為替の関係などもあり欧米の方々を含めて活発に動いている。

為替については今後、さまざまな形で動いてくると思う。その動きに影響されないように、日本の魅力をさらにPRし、それによって長く滞在していただき、より高単価の消費をしていただく、という形にしたい。

海外の方々もコロナ禍で旅行に行けず、落ち着いたら行きたい、というニーズがあった。その間、お金もたまっていた。行くなら安全で安心して行ける日本へ、と思っていただいたのだろう。日本への関心が高まっているのは事実で、引き続きプロモーションを積極的に進めたい。

国内旅行のマーケットをどう活性化　最明
最大の課題はアウトバウンドの復活　髙橋
インバウンドの地方誘致へ魅力発信　蒲生

TEJ、注目の事業

――今年のTEJの狙い、特徴、注目の事業は。

髙橋 昨年は大阪で行い、かなりの盛況だった。今年は再び東京での開催となる。コロナ禍を経て、日本のツーリズムがしっかり復活している姿を国内外に示す絶好の機会と受け止めている。

特徴の一つは、47都道府県全てから出展いただいていること。各地方の観光復活にかける熱い思いを感じる。

海外の出展も増えており、出展全体の4割ぐらいになっている。日本からの海外旅行の回復は遅れているのだが、日本人客に来てほしいという海外の国々の熱意と受け止め、われわれはしっかりと応えていかねばならない。

もう一つ取り上げたいのは、来年、もう半年後に迫っている大阪・関西万博だ。特に首都圏ではまだまだ盛り上がりに欠けている。万博のコーナーを設けて、その機運醸成を図りたい。

さらにもう一つ。北陸の復興支援も今回のテーマとしている。一般日の2日間、物産展を開催して来場者に北陸の物産を購入いただく。このような北陸の観光復活につながる取り組みを行う。

数年前から高校、大学、専門学校の生徒等、学生の土曜・日曜日の一般日の来場を無料とした。また、今年は木曜日・金曜日の業界日に観光を専攻する専門学校や大学38校から4500人を超える学生たちが来場する予定だ。さらにうれしいことに、観光学部や学科を持つ大学14校が自身の取り組みをアピールするブースを出展する。

コロナ禍で観光業界のイメージが落ち、業界に就職を希望する学生が減少した。今回のTEJを観光に対する認識を改めてもらう場にしたいし、海外旅行が低迷している要因の一つに若者が海外に行かないという現状もあるので、旅行の魅力を再認識してもらう場にもしたい。学生の招待はこのような二つの狙いがある。

来場者数は18万人を目標としており、ぜひとも達成したい。

14面に続く

ツーリズムEXPOジャパン2024
9.26(thu)–29(sun) 東京ビッグサイト
ツーリズムEXPO 検索
9月26日(木)・27日(金)は、業界関係者のみの展示商談会となり、一般の方は入場できません。
9月28日(土)・29日(日) 入場料(税込) 当日入場券：1,300円 / 前売入場券：1,000円
お問い合わせ ツーリズムEXPOジャパン推進室 TEL:03-5510-2004 event@t-expo.jp
●学生は公式ホームページから来場登録を行い、会場で当日有効な学生証をご提示いただける方は無料で入場いただけます。
●小学生以下のお子様のみでの入場はできません。保護者が同伴する場合に限り、無料で入場いただけます。
前売入場券発売中! チケットは公式ホームページ・コンビニにて
【主催】公益社団法人日本観光振興協会 / 一般社団法人日本旅行業協会 / 日本政府観光局 【特別協力】一般社団法人全国旅行業協会
【後援】国土交通省 / 国土交通省観光庁 / 総務省 / 外務省 / スポーツ庁 / 文化庁 / 厚生労働省 / 農林水産省 / 経済産業省 / 環境省 / 東京都 / 公益財団法人東京観光財団 / 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） / 一般社団法人日本経済団体連合会 / 日本商工会議所 / 東京商工会議所
【協賛】
JCB　Incredible India　Saudi アラビア半島へいらっしゃい　LOVE THE PHILIPPINES　HAWAII TOURISM JAPAN　ANA　JAL　STARLUX　HANEDA　Narita Airport　JR東日本
株式会社オリエンタルランド
東京海上日動火災保険株式会社
JR東海　JR西日本　JR東日本　JR北海道　JR九州　JR貨物
世界にひとつ。あなたにひとつ。